

今年の夏は観測史上で最も暑い夏であつたと気象庁の発表があった。原因としては、偏西風が北寄りに吹いた、列島の上空で太平洋高気圧とチベット高気圧の二つの高気圧が重なったなどと、理由は様々あるようである。職員や利用者との朝の挨拶でも、示し合

夏、梅雨の蒸し暑い仲夏、暑さの厳しい晩夏といわれている。九月になつても暑さの続く、近年の長引く晩夏もどうにかならないだろうかと思つてい

る。

春や秋の存在は年々低下している。外国のように四季から二季となつていくのだろうか。多くの人が知つてゐる「春を愛する人は、心清き人」から始まる、荒木とよひさ氏が作つた、四季の歌も実感がないものとなるのかもしれない。

多かった。小学生の頃、夏休みの宿題に、日々の天気や気温を記入する箇所があり、三十度を超える日が少なかつたと記憶しているが、今では真夏日や猛暑日も当たり前となり、四十度を超えることにも驚かなくなってきた。日本の夏を分ける三夏は、さわやかな初

光

曙 光



令和7年10月1日発行

広島県立
総合リハビリテーションセンター

あけぼの

〒739-0036
東広島市西条町田口 295-3
TEL (082) 425-1455

は出会いと別れの季節であり、人恋しさを感じるとともに、桜の花を見て、わずか数日間、彩られた後に、あつさりと散る桜から儂さを知ることができます。秋の後まらないことも多い。個

人を物思いに誘う感傷などは、この時期ならではの纖細な感覚ではないだろうか。熱波や寒波でない状態は過ごしやすく、体も心も穏やかに過ごすことができる。逆に熱波や寒波のみとなれば、曖昧が減り、他人に激情だけで求めることがないように、や、傷つけたりするようになるのかもしれない。数学者の森毅氏は、専門分野から想像

して墜落した古代ギリシャのイカロスの例もあることから、「夏の疲れを癒す心地良い「ぬる湯」に浸かるのもいいかもしない」。

人的には、前述の「のどか」や「曖昧」は好きであり、施設の責任者の立場にあるにもかかわらず、「テキト」も好きでありますことから、なまぬるい人間である。太陽に近づきすぎると意外だが、「ええかげん」が大好きであった。一方、聖書の默示録には、「熱くも冷たくもなく、なまぬるいので、わたくしはあなたを口から吐き出そうとしている」とあり、信仰の世界では、曖昧さは許されず、物事への決断の態度をはつきりするよう求められていて



生活訓練グループ



訓練の一環として実施している「行事企画（フレゼン）」について紹介します。

目的：コミュニケーション能力の向上（対人技能 感情コントロール 欲求コントロール）
物事を計画的に円滑に進める力の向上
記憶や注意機能などの代償手段を活用（メモリーノートやスマートフォンなど）
健康的な生活習慣の獲得 身体機能維持向上 等

- ①計画：メンバーで役割分担、行先、タイムスケジュール、準備物などを協議検討します。
- ②準備：計画に従って、各自の役割や準備したものを模造紙に張り付けたり、記入します。
- ③フレゼン：代表者に調べた内容や行きたい気持ちなどを発表してもらいます。フレゼンの結果を踏まえて、最終的な行先を決定します。
- ④実施：自分たちで立てた計画に沿って行動します。
- ⑤振り返り：うまくいったこと、うまくいかなかったことについて、その原因と対策を考えます。苦手になっていることについては、対策を身に着け今後の行動につなげることを目指します。

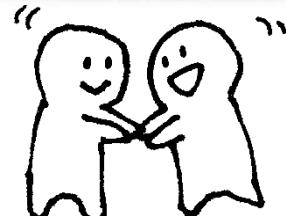


生活介護

利用者のやしたいことを一緒に考え、様々な活動に取り組んでいます。

8月に実施した納涼会では、生活介護の利用者を中心には準備などを進めました。それぞれが役割を担い、利用者一丸となった行事となりました。

そのほかクッキングでは、やけどに注意しながらミニホットケーキを作りました。集団スポーツでは的あてやボウリングに取り組み、白熱した勝負になり盛り上がりました！



機能訓練グループ

個別トレーニングの様子をご紹介します。



屋外歩行

周囲の安全に注意しながら屋外を歩く練習。入所中は室内での生活が主になってしまふため、屋外の環境に慣れることも目的。

ジョーバを使用した体幹トレーニング

エアロバイクでの筋力トレーニング

地域生活に向けた階段昇降の練習



通所(就労)グループ

電話連絡

手元資料を用意して、作業の進捗確認を行います。電話が苦手な利用者も口頭での伝達や聞き取りの力を身につけていきます。



掃除

利用者の居室や相談室、玄関などを定期的に清掃しています。



作業管理

指示書を見て納品指定日、納品数を確認した後、作業の優先順位をつけていきます。納品日が同じでも、数量や作業内容ごとの所要時間などに注意しながら優先順位をつけています。

曙 光

令和7年10月1日発行

広島県立総合リハビリテーションセンター あけぼの

第88号〔4〕

施設間交流



意見交換会の様子

9月25日に、高知ハビリテーションセンターの職員3名が来所され、生活介護事業を中心にあけぼのを見学されました。

見学後は意見交換会を行い、各施設での取り組みや、悩みを相談しあい、とても充実した交流の機会になりました。

10月には、あけぼのから高知ハビリテーションセンターへ見学に行く予定です。



利用者の動き

(令和7年6月1日～令和7年9月30日)

《新規利用者》 8名 (就労移行支援1, 生活訓練7) (通所2, 入所6)

【利用経路】高次脳機能センター6 (外来2, 入院4), 特別支援学校1, 事業変更1

《利用終了者》 8名 (就労移行支援1, 生活訓練4, 生活介護3) (通所2, 入所6)

【進路先】日中活動：就労継続支援B型2, 生活訓練1, 生活介護1, デイケア1, 未定2

生活の場：自宅2, グループホーム2, 障害者支援施設1, あけぼの1 (就労アセスメント1)

利用状況 令和7年10月1日現在

	生活訓練 (定員24)	就労移行支援 (定員6)	生活介護 (定員30)	施設入所支援 (定員40)
在籍数	18	1	11	26

利用のご相談は
隨時受け付けて
います。



編集後記

今年の夏もとても暑く、朝から晩まで冷房が欠かせない日々が続きました。皆様はどうお過ごしになりましたか？

私はですが今年の5月に支援員としてあけぼのへ入所し、新しい日々がスタートしました。とても緊張していましたが、スタッフ・利用者の皆様の優しさと心遣いにより今日まで頑張ることが出来ています。心から感謝しております。

い。
すい季節に入りますが、皆様どうぞお健やかにお過ごしください。

今回は、利用者の松森吉彦さんに「曙光」を書いていただきました。依頼した際は少し驚いた様子で笑つておられました。最後まで力強く書いてください、立派な題字が完成しました。書き終えた後の素敵な笑顔もとても印象的でした。

題字紹介